

## おおさか食育フェスタ2017

～ 知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質 ～

平成29年 8月19日

### ○ 司会

それでは、お時間となりましたので始めてまいりたいと思います。

皆様、改めまして、こんにちは。本日は、おおさか食育フェスタにご来場くださりまして、まことにありがとうございます。ここからのお時間は、「知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品と放射性物質」と題したセミナーを行ってまいります。

それでは、お話をさせていただく先生をご紹介いたしましょう。神戸学院大学の礧部久美先生です。皆さん、拍手をお送りください。（拍手）

### ○ 礧部

皆さん、こんにちは。

6年前に東日本大震災がありました。そのときに福島県の福島第一原子力発電所が事故を起こしました。そのことを覚えていますか。ちょっとご返事がないんですけれども、事故がありまして、発電所の中にあつた放射性物質が環境中に漏れてしまいました。そして、東北地方を中心に降り注いだわけです。すると、そこで育つた農作物はどうなんだろうと心配される方もいらっしゃると思います。今日は、そういうお話を中心にさせていただきます。

〔スライド2〕

その前に放射線の基礎についてお話します。放射性物質、放射線、放射能の違いなんですけど、これは電球と光に例えるとわかりやすくなります。電球は光を出します。放射性物質は放射線を出します。光は見えます。7色の光は見えます。でも、目に見えない光があります。紫外線、赤外線ですね。特に女性は、紫外線に当たると肌が焼けると言いますが、紫外線は目に見えません。実は放射線も目に見えない光の仲間です。

電球は光を出す力があります。放射性物質は放射線を出す力があります。放射性物質の放射線を出す力のことを放射能と言います。それをベクレルという単位であらわします。そして、放射線が人体に当たると、人体が影響を受けます。放射線を浴びることを被ばくと言いますが、放射線を被ばくして、人にどれだけ影響があらわれるかをシーベルトという単位であらわしま

す。シーベルトにはさらに小さな単位があります。ミリシーベルト、マイクロシーベルトです。0.001シーベルトは1ミリシーベルトです。1ミリシーベルトは1,000マイクロシーベルトになります。

ところで、自然放射線があるのをご存じかと思います。発電所の事故で出てきたのは人工の放射線です。自然放射線は体に悪くはないけれども、人工の放射線は体に悪いとよく聞きます。それは全くの間違いです。放射線はもとをただせば、アルファ線、ベータ線、ガンマ線です。人工の放射線も自然の放射線もこのシーベルトという単位であらわされた数値が同じであれば、人体への影響は同じとなります。

〔スライド3〕

被ばくには外部被ばくと内部被ばくがあります。外部被ばくはこちら側、体の外からやってきた放射線を浴びる被ばくのことです。内部被ばくというのは、食べ物が放射性物質で汚染されている、あるいは空気が放射性物質で汚染されている、そういう食べ物を食事でとったり、呼吸したりすることで放射性物質を体の中に取り込みます。すると、体の中の放射性物質から放射線が出て被ばくします。これを内部被ばくといいます。

今日は、食品に含まれる放射性物質のお話なので、内部被ばくを中心としたお話をします。放射性物質を体の中に取り込みますと、もう体から出てこないと考えていらっしゃる方がいます。それは全くの間違いです。人間は新しいものと古いものを入れかえる代謝という機能を持っています。しかも、放射性物質の、放射線を出す力は、時間とともにだんだんと弱まってきます。このように、体の中に取り込んだ放射性物質は少なくなっていくます。

シーベルトという単位は放射線を被ばくして、人体にどのくらい影響があらわれるかを表す単位ですが、外部被ばくの1マイクロシーベルト、内部被ばくの1マイクロシーベルト、同じ1マイクロシーベルトです。どちらが人体への影響が強いでしょうか。皆さん、手を挙げて下さい。

外部被ばくだと思う人、(おとな数名が挙手)、内部被ばくだと思う人、(おとな数名が挙手)。同じだと思う人、(子ども一人挙手)。偉いね、正解。おとなの方は大丈夫ですか。(笑い)。実は、同じです。イメージ的には外部被ばくよりも内部被ばくのほうが影響が強いのと思いがちですが、シーベルトという単位の数値が同じであれば、外部被ばくも内部被ばくも影響は同じです。(正解の子どもに向かって)よかったね、後で、何か買ってもらってね。

〔スライド4〕

次に質問です。これは皆さんがよく食べる食品です。何でしょう？一番最初はちょっとわかりにくいので、答えは豚肉です。次はわかりやすいですね。

○ 参加者

バナナ。

○ 磯部

そうそう、バナナです。次は？

○ 参加者

じゃがいも。

○ 磯部

じゃかがいも？ よくブドウという答えが返ってきますが、ブーです。バナナの輪切りです。こう切ったんですね。

次、これは何でしょう。これも難しいので答えはショウガです。これは、何かというと、食品の中から出ている放射線です。これは原子力発電所から漏れ出た放射性物質から出る放射線ではありません。自然放射性物質が食品の中に含まれていて、そこから出る放射線なんです。

[スライド5]

これから身の回りにある自然放射線の話をしていきます。実は、放射線って目に見えないのですが、もし見えたとすると、このあたり、放射線がうじゃうじゃといっぱいあります。見えないだけです。自然放射線はどこにあるか。宇宙にあります。宇宙は、この地上よりも、何千倍も強い放射線が飛び交っています。地球には空気、大気があります。それが放射線をさえぎってくれています。でも、一部、私たちの体に降り注いでいます。なので、外部被ばくを受けています。

飛行機に乗りますと、宇宙に近づくので、地上にいるよりもたくさんの被ばくを受けます。東京ーニューヨーク往復することで、200マイクロシーベルト、つまり0.2ミリシーベルトの被ばくを受けます。ちょっと数値を覚えておいてください。

どこにあるか、空気にあります。皆さん、今、空気を呼吸していますがね。この空気の中にはラドンという自然放射性物質があります。それを、呼吸で吸い込むことで内部被ばくを受けています。という息をとめる人がいます。とめないでください。普通に息をしてください。後で説明しますが、自然放射性物質のラドンを吸入するぐらいで私たちの体はどうってことありません。

他には、大地にあります。地球が誕生したときにできた、自然放射性物質がまだまだ地球に残っておりまして、そこから外部被ばくを受けています。わかりやすいのが、ラジウム温泉です。ラジウムは自然放射性物質です。地球の中にあったのが、地上に出てきて、温泉が湧いて、それを私たちは便利に利用しているわけです。

他には食べ物にあります。食べ物は、カリウム40という自然放射性物質が含まれていまして、食べ物を食べることで内部被ばくを受けています。

さっき、豚肉やバナナから放射線が出ているスライドがありましたが、あれはカリウム40から出ている放射線です。

日本人は平均で、これら自然放射線から、年間で2.1ミリシーベルトの被ばくを受けています。後で話すので、年間2.1ミリシーベルトの数値を覚えておいてください。

〔スライド6〕

放射線を浴びると人体はどうなるかをお話します。人体は、細胞が集まってできています。細胞が何個あるでしょうか。60兆個です。60兆、検討つきますか。お金だったらいいですね。人体は60兆個の細胞が集まってできていまして、その細胞の1つ1つに遺伝子というものがあります。ひものようなやつです。この遺伝子、とても重要です。私たちの体の設計図があります。例えば、手をけがします。しばらくすると、その傷、どうなっていますか。治りますね、それは遺伝子が設計図どおり、私たちの体を元に戻してくれたのです。というように遺伝子は重要なものです。

〔スライド7〕

放射線はこの遺伝子を傷つけます。これは遺伝子です。放射線は、遺伝子に当たりますと遺伝子を傷つけますが、私たちの体は、治す仕組みが備わっていて、これがちゃんと治してくれます。自然放射線レベルであれば、治す仕組みがちゃんと傷を治してくれています。

でも、遺伝子を傷つけるのは放射線だけではありません。いろいろな原因がありますが、例えば、呼吸、呼吸は空気から酸素を取り込み二酸化炭素を排出するという、生きるのに必要なものですが、呼吸することで、遺伝子は傷つけられています。人体の細胞は60兆個ありますが、その1つの細胞の遺伝子、1日当たり、何個傷つけられているかご存じですか。答えは5万個です。つまり、呼吸により1日当たり、1つの細胞の遺伝子は5万個傷つけられているんです。でも、治す仕組みが働いて治してくれているわけです。今でも、皆さんの体の中では、せっせ、せっせと治す仕組みが働いて、遺伝子の傷を治してくれています。

では、放射線の1ミリシーベルトの被ばく、さっき自然放射線で1年間に2.1ミリシーベルトの被ばくを受けると言いましたが、1ミリシーベルトの被ばくで、1つの細胞の遺伝子はど

れだけ傷つくかという、たった1個なんです。ということは、もともと呼吸で5万個傷つけられていても、治す仕組みがちゃんと治してくれているので、1ミリシーベルトの被ばくによる遺伝子の1個の傷くらいはへっちゃらなんですね、その程度であればちゃんと治してくれるのです。

では放射線を被ばくする量が多くなるとどうでしょう。被ばくする量が多くなると、できる傷は多くなります。多くなると、さすがに治す仕組みも治しきれません。すると、そのまま傷が残ります。すると、将来がんになったり、病気になったりする可能性ができてくることになります。

よく放射線は怖いとか、恐ろしいとか言いますが、そうではないんです。放射線が怖いのではなく、放射線の量が多くなったら怖いということ、ぜひ覚えていただきたいと思えます。

[スライド8]

放射線を浴びると、よくがんになるというのを聞きますけれども、がんになる原因は放射線だけではありません。このような生活習慣でもがんになります。

この表は、放射線の被ばくと日常の生活習慣を比べて、どのくらいがんが増えるかを見たものです。一度に100ミリシーベルト未満の被ばくであれば、検出不可能となっています。ということは、一度に100ミリシーベルト未満の被ばくであれば、がんのリスクは増加しない、がんは増えないと言われています。一度に100から200ミリシーベルトの被ばくをしますと、野菜不足とか受動喫煙と同じがんのリスクになり、大体1.02から1.08倍、がんが増えます。200から500ミリシーベルトの被ばくはやせすぎ、肥満、運動不足、塩の取りすぎと同じがんリスクになります。大体1.11から1.29倍、がんが増えます。1,000から2,000ミリシーベルトの被ばく、これは、原爆爆心地並みの被ばくになりますが、たばこを吸う人、大量にお酒を飲む人と、同じがんリスクで、大体1.6から1.8倍、がんが増えます。

今日、お話しするのは、1ミリシーベルトの被ばくです。表の100ミリシーベルト未満の被ばくに該当します。

[スライド9]

6年前に起きた、福島第一原子力発電所の事故についてです。発電所が事故を起こしまして、中に封じ込めてあった、放射性ヨウ素や放射性セシウムが環境中に漏れ出しました。そして、東北地方を中心に環境に降り積もってしまいました。放射性物質には半減期というものがありまして、ずっと放射線を出し続けるわけではありません。放射線を出しながら、だんだんと放射線を出す能力が弱まってきます。放射線を出す能力が半分になる時間のことを半減期と

いいまして、放射性ヨウ素の場合、半減期は8日なので、事故から数カ月たてば、放射性ヨウ素はすっかりなくなっています。

放射性セシウムには、半減期が30年のものがあります。ということは、30年たって、やっと半分になりますので、事故から6年たっていますが、まだまだ残っているわけですね。

〔スライド10〕

放射性セシウムが東北を中心に降り積もってしまい、そこでできた農作物は、大丈夫ですかと心配されると思います。つまり、農作物は放射性セシウムを取り込みます。取り込んだ農作物を食べると内部被ばくを受けるので、あまりよくないですよ。なので、東北の農家さんは大変な努力をされました。反転耕といいまして、放射性セシウムは土の上のほうにあります。下のほうにはあんまりないんですね。それを上下入れかえます。すると、農作物の根は、セシウムのついてるところまで届きません。ということはセシウムの吸収を抑えることができるんですね。こういうことを農家さんはされました。

口で言うと、非常に簡単ですけど、大変なことです。大型のトラクターを持ってきて、地面をぐわーっと掘るわけですね。それをひっくり返すわけですから、大変なことです。農家さんたちはこういうこともされました。

〔スライド11〕

東北は果物がおいしいです。特に福島の桃を、私、毎年、取り寄せているんですけども、今年もまた注文しました。果物の実は、根からセシウムを吸収するのではなくて、セシウムはむしろ樹木の表面の皮からセシウムを吸収するんです。農家さんは、何をしたかというところ、この写真にあるように、高圧洗浄機で樹皮を洗って、セシウムを取り除いたわけですね。ここにもありますけれども、冬の間をやったんですね。東北地方は寒いんです。それも果樹は、何十本、何百本もありますから、大変な努力だったと思います。でも、おかげで、樹皮のセシウムは56%まで減らすことができましたし、おかげで果物の実の中にセシウムを取り込むことを抑えることができました。

〔スライド12〕

カリウムという元素があります。カリウムは植物にとって、必須元素です。なので、根からカリウムをどんどん吸収します。農作物もそうです。実は、カリウムとセシウムとはよく似ています。土壌にカリウムが少ないと植物はセシウムも一緒に吸い込んでしまうわけですね。それで農家さんはどうされたかというところ、たくさんのカリウム肥料をまきました。すると土壌は、カリウム濃度が高くなり、セシウム濃度が低くなります。すると植物はセシウムよりもカリウムをたくさん吸収するので、セシウムの吸収を抑えることができました。このように農家さんは

大変な努力をはられました。

[スライド13]

たくさんのセシウムを食品からとりますと、やはり体によくないということで、日本では食品の基準値を決めました。これは食品に含まれる放射性セシウムの量を、これだけまでに抑えましょうというものです。日本は、飲料水、1キログラム当たり10ベクレルまでに抑えましょう。それより高いものは飲まないようにしましょう。牛乳、1キログラムあたり50ベクレルまでに抑えましょう。一般食品、これはお米とか農作物とか魚介類ですね、そういうものは1キログラム当たり100ベクレルまでに抑えましょうということにしました。

この基準値を超えるものは市場に出回っていません。皆さんが食べているものはすべてこの基準値を下回っているんです。今、日本に出回っているものは、この基準値以下のものです。

この基準値というのは、ご注意いただきたいのほですが、危険と安全の境界ではありません。科学的に食べたら危険だという数値は、これよりもっと、もっと、ずっと上のところにあります。このような基準値というのは、ずっと安全側に考えて、危険だという数値よりも、随分下に設定しています。なので、基準値を超えるものを少しぐらい食べたとしても、体に何ら影響はありません。だから、安全と危険の境界ではないということを知っていただきたいと思えます。

この基準値は、どのように算定されたかという、食品には、もともと自然放射性物質カリウム40があります。カリウム40から、当然内部被ばくを受けているのですが、セシウムが食品に含まれていることによって、追加的に内部被ばくを受けます。これが、年間1ミリシーベルトを超えないように設定されています。

また出てきましたね、1ミリシーベルト、覚えていらっしゃるでしょうか。呼吸では、遺伝子が1日、5万個傷つけられているのですけれども、1ミリシーベルトだったら、1個、傷つけられるのでしたね。それだけ、非常に安全側に基準値は設定されています。

[スライド14]

じゃあ、実際、東北の農作物が、どのくらい基準値を超えているものがあるか見ていきます。調べたのは、17都県となっています。これは北海道を除く、東日本全部と思ってください。まずお米ですが、平成24年度から、いきなり増えているのは、これは福島県では全量全袋検査を行ったからです。だから増えています。

一番左側が、検査した年度ですが、下に行くほど最近になります。これが検査点数です。これが基準値を超えたものです。このように、最初の年は、基準値を超えるものはありましたが、農家さんの努力や、いろいろな方策により、だんだんと基準値を超えるものは少なくなってきました。

ました。平成27年から、お米は、基準値を超えるものはありませんとなっています。

実は平成28年、基準値を超えるものゼロとなっていますけれども、これは検出限界値以下なんです。セシウムを測る機械は、高感度にセシウムを測れる機械ですが、その機械でも、セシウムを測ることができませんというのが、検出限界以下です。ということは、そのお米、食品には、セシウムがありませんというふうに思っただけでも結構かと思います。平成28年では、このようなことが起こっています。野菜とか果物、豆も同じような傾向で、平成28年度の測定では、検出限界値以下になっているものがほとんどです。牛乳や、お肉も同じ傾向です。

今お話ししたのは、人が管理しているものです。自然に生えた野生のタケノコや、山菜、キノコは、まだまだ基準値を超えるものもあります。でも、先ほど言いましたように、基準値を超えるものがあっても、少くく食べても、健康に影響ありません。人が管理しているお米、野菜等は、検査しているので、基準値を超えるものが市場に出回ることはありません。

〔スライド15〕

魚介類ですが、魚介類は農作物とはちょっと事情が違います。よく福島第一原発から汚染水が漏れたという話を以前聞きませんでしたか。汚染水が漏れるとこれがそのまま外洋、太平洋にじゃじゃ漏れしたようなイメージを受けますが、実は違います。発電所の中に遮水壁というものがありまして、遮水壁で汚染水はとまっています。発電所の港湾の外の外洋、太平洋には汚染水は漏れていません。継続的に外洋のモニタリングを行っていますが、セシウムの濃度は、ほぼ検出限界値以下の低いレベルにおさまっています。

魚介類が住む海や川等のどこにセシウムがあるかということ、海水や川の水にはセシウムはありません。どこにあるかということと土にあります。後で説明しますが、セシウムは海底や川底の砂、泥にあります。

海水魚の場合、福島県と福島県外では、事情が違います。福島県は、操業を自粛しており、漁師さんは漁をしていません。でも、定期的に検査目的で試験操業を行い、採れた魚介類のセシウムの量を調べています。それがこれです。福島県沖の試験操業においても、随分、基準値を超えるものは少なくなってきました。これも平成28年度においては、ほとんど検出限界値以下となっております。福島県以外の都県は漁をしていますが、これも基準値超えのものは少なくなっており、平成28年度においては、検出限界値以下となっております。

ところで海水魚は、セシウムを体の外に排出する機能があるので、取り込んだセシウムを体の外に排出します。淡水魚は、取り込んだセシウムを排出する機能がないのでずっと体の中にとめてしまいます。海水魚と淡水魚はこのような違いがあり、淡水魚では、海水魚に比べて、減り方が緩やかではありますが、確実に少なくなっているのがわかります。福島県外の淡水魚



も同様です。そして基準値を超えるものがあれば、市場には出回ることはありません。

〔スライド17〕

基準値を超えた食品が市場に出回らないというけれど、ほんとうに大丈夫なのかと調べたのが、マーケットバスケット調査です。各地で流通している食品を集めてきて、その食品から1年間に受ける放射線量を算出しました。自然放射性物質カリウム40に追加して、セシウムによる内部被ばくは年間1ミリシーベルトを上限にしましょうとしましたが実は、もっとも低いところに抑えられていました。2016年の調査では、0.007から0.0014ミリシーベルトでかなり低いことがわかります。福島県は、他と比べてわずかに高くなっていますが、どの県においても、セシウムによる内部被ばく量がたいへん少なくなっているのがわかると思います。なので、日本で行われている食品の管理体制が、非常にうまく行われていることがわかると思います。

〔スライド18〕

先ほど、海でも池でも、放射性セシウムは底の土にありますと言いましたが、実は放射性セシウムは土とくっつきやすい性質があるんです。土の中でも、特に粘土ですが、粘土にはこういう穴があります。もちろん、私たちの目には見えないような小さな穴ですが。その穴とセシウムの大きさがぴったりなんです。しかもセシウムはプラスの電荷があり、土はマイナスの電荷があります。すると電氣的にもしっかり結合します。すると水に溶けなくなります。

もともと福島第一原発から漏れたセシウムは水に溶けるものでした。なので、水に溶けて環境中を移動していました。でも、土に接触しますと、土としっかりくっつきます。水に溶けないということは、非常に幸運なことです。なぜかと言いますと、植物の肥料や栄養は、水に溶けることで根から吸収されます。セシウムが水に溶けないということは、セシウムが土にあったとしても、根から吸収されません。原発事故から6年たって、今では、こういうことが起きています。なので、農作物にもセシウムが吸収されにくくなっています。

〔スライド19〕

水道水の話をしてします。水道水は、湖、池や河川から水を浄水場に取り込んで作ります。先ほどお話したように、セシウムは泥とくっつきます。すると下に沈むわけです。水道水には上澄みしか使用しません。上澄みも消毒して水道水にするのですが、なので、セシウムは含まれません。そして、各自治体では、水道水のセシウムの量をモニタリングしています。全部検出限界以下となっております。

食品には自然放射性物質のカリウム40が含まれていますと言いました。ここに書いてある数字は食品1キログラムに含まれるカリウム40の量です。お米ではカリウム40が1キログラムあ

たり30ベクレル含まれています。牛乳、魚、牛肉にもあります。ハウレンソウやポテトチップスは、結構多いんです。どの食べ物を食べましても、カリウム40が含まれています。私たちは、カリウム40が含まれている食品を食べることで、体の中には約7,900ベクレルの放射性物質があり、そこから内部被ばくを受けています。

でも、自然の放射線は構わないが、放射性セシウムから出る放射線は人工の放射線で、人工の放射線は体に悪いと考える人がいます。それで、セシウムも含むものは、絶対嫌だという方もいらっしゃると思います。それは個人の主観なので仕方のないことだと思います。では、セシウムを含む食品と含まない食品ではどれだけ内部被ばく量に違いがあるかを見比べてみます。セシウムを含む食品として、2011年、原発事故が起こった年に、福島市内で取れた柿です。1キログラム当たり30ベクレルのセシウムがありました。ただし、次の年は、この柿の木は、セシウムは検出限界値以下だったそうです。

セシウムを含まない食品として、ポテトチップスです。セシウムのほかにどんな放射性物質がありますか。わかる人、教えてください。何でしょう。

○ 参加者

カリウム40。

○ 磯部

そうです。どの食品を食べてもカリウム40があります。セシウムが含まれなくても、ポテトチップスの中にはカリウム40が含まれます。それでは、セシウムを含む柿、含まないポテトチップスを食べたときの内部被ばく量を見比べてみます。

柿1個が200グラムとするとセシウムが6ベクレル含まれています。カリウム40も含まれています。柿200グラムでは10ベクレルあります。そこから内部被ばくを計算しますと、柿1個食べることで0.14マイクロシーベルトの内部被ばくを受けます。ポテトチップス1袋60グラムでは、カリウム40が24ベクレル含まれます。ポテトチップス1袋を食べることで、0.15マイクロシーベルトの内部被ばくになります。なので、少々セシウムを含むものを食べたとしても、内部被ばく量は変わらないということがわかると思います。

このように、東北地方では、原子力災害がありましたが、農家さんたちの大変な努力のおかげで基準値を超える食べ物が市場に出回っていないことをお話しました。お店に売っているものは、東北地方のものであっても安心して食べていただくことができます。

ありがとうございました。(拍手)

○ 司会

磯部先生、ありがとうございました。

では、ここからは質問タイムにさせていただきたいと思いますので、何か今、お話を聞いて、聞いてみたいことがあるという方は、ぜひ手を挙げて、ご質問いただければと思います。どなたかいらっしゃいますか。いらっしゃらないですか。何でも構いませんので、磯部先生に聞きたいことがあるという方は、お気軽にご質問いただければと思います。

はい、どうぞ、後ろの男性の方。

○ 参加者

大変ためになるお話ありがとうございました。

検査のお話で、27年ぐらいから基準をオーバーするような検体は1つも出ていないといお話だったかと思うんですけども、こういった検査って、いつまで続けるんですか。もうやめちゃってもええんかなって思ったりしたんですけど。

○ 磯部

ありがとうございます。

私は行政の立場ではないので、何とも申し上げられないんですけども、出ていないということが続けることが大切なのかなという気もします。というのは、まだまだ心配だという方がたくさんいらっしゃるので、そういう方を考えると、ここでやめてしまうとよくないのかなと思います。いずれはやめるそのきっかけは必要なのではないかなと思っております。

○ 司会

よろしかったでしょうか。ありがとうございます。

ほかにご質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。よろしかったでしょうか。

それでは、質問タイムは、これで終了とさせていただきます。それでは、詳しいお話をいただいた磯部先生に、皆さん、盛大な拍手をお送りください。(拍手)

ありがとうございました。

● 1回目の質疑応答

○ 司会

それでは、ここからは質問タイムに移らせていただきたいと思いますので、何か、礒部先生に聞きたいことあるという方は、手を挙げていただけますでしょうか。ありませんか。ご質問あれば、何でも構いませんので、お気軽にお尋ねいただければと思いますが。

○ 参加者

今話を聞いていると、今はもう福島のもは大丈夫だということですか。

○ 礒部

お店に売られているのは大丈夫です。ただ、ちょっと注意していただきたいのは、人の管理されていない野生のものです。野生にあるタケノコであるとか山菜、キノコ、あとイノシシ等の野生の動物です。これらは、まだちょっと高いものがあるので、野生のものは控えたほうがいいかなと思います。でも、キノコとか山菜でも、人が管理して売られているものであれば、安心して食べていただいて結構です。

○ 司会

ありがとうございます。ほかに何かご質問ございますでしょうか。

○ 参加者

食べ物だけじゃなくて、衣服とかも調べたら出たとか、そういう話も聞いたことがあるんですけど、布とか、そういうのは大丈夫なんですか。

○ 礒部

衣服に土がついているのではないのでしょうか。そういうケースがあるんです。今、土にセシウムがくっつくとお話しをしましたが、ちょっと農作業とかで外に出て、土をさわりますと、土が衣服についたりするでしょう。機械で測定するとそれだけでセシウムが検出されます。なので、衣服をつくっている材料にセシウムが混ざっているということはないです。

私も、何度も福島に行っていますが、泥を踏んでいるので、靴の裏にセシウムをくっつけて、持って帰っていますね。

○ 司会

はい、ありがとうございます。ほかにご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

では、なければ、これでセミナーを終了させていただきたいと思います。それでは、お話をいただきました磯部先生に、皆さん、盛大な拍手をお送りください。(拍手)

ありがとうございました。

—— 以上 ——